

三菱ガス化学（株）新潟工場 カーボンニュートラルへの取り組み

三菱ガス化学株式会社新潟工場では、以下の取り組みを通じて「2026 年度 GHG 排出量を 2013 年比 45%削減する（GHG 排出量 2013 年度実績：43.4 万 t-CO₂e、2026 年度目標：24 万 t-CO₂e）」という目標の達成に繋がります。さらには 2030 年度に 48%削減を目指しています。

1. 省エネ

化学品製造時に使用するエネルギーの削減を進めます。

2. 購入電力の実質再エネ化

2022 年 4 月より、工場で購入する電力に相当する非化石証書購入を継続しています。2024 年度も購入電力の 100%を実質再生可能エネルギーとしました。今後も継続していく計画です。

3. 水素ステーション、燃料電池フォークリフトの運用、社有車への活用

水の電気分解によって水素を製造する水素ステーション、水素燃料電池フォークリフト 7 台、水素燃料電池自動車を活用しています。2024 年度、燃料電池フォークリフトはのべ 1,263 時間稼働され、バッテリー式に比べておおよそ 4.2 トンの GHG 排出量削減につながりました。社有車として導入した燃料電池自動車は、のべ 14,400 km 走行し、これまでのガソリン車と比べておおよそ 2.9 トンの GHG 排出削減につながりました。



モビリティ分野での水素利活用を通して、水素をより身近なものにしていきます。

4. バイオマスの利用

工場で製造される製品の一部をバイオマス由来原料から作っています。具体的には、2023 年度から新潟県のバイオガスを原料に使用したバイオメタノールの製造を継続しております。加えて、当工場のバイオメタノール製造、DME 製造、MXナイロン製造に対して国際的なバイオマス由来製品の認証制度である ISCC PLUS 認証を取得しており、今後、サプライチェーンでも低炭素の価値を追求していきます。



5. CO₂ の利用（CCUS）

工場で発生する CO₂ をガス田に圧入することで CO₂ の貯留や利用につなげる検討を行っています。これは、天然ガスから水素を製造するときに発生する CO₂ も同じで、地下に貯留することで、クリーンな水素を製造できないか検討を行っています。

